

「野方小学校の荒佐野棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

大崎町立野方小学校

2 学年・人数

4年生から6年生（計30人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年10月14日（土） 「のがたっ子フェスタ」（学習発表会）での発表に向けた練習（本校体育館）

令和5年10月17日（火） 「のがたっ子フェスタ」（学習発表会）での発表に向けた練習（本校体育館）

令和5年10月27日（金） 「のがたっ子フェスタ」（学習発表会）での発表に向けた練習及び衣装合わせ・リハーサル（校庭・本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和5年11月2日（木）「のがたっ子フェスタ」（学習発表会）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

荒佐野棒踊り（あらさのぼうおどり）

(2) 由来

約338年前に摂津・河内・和泉の三国（現在の大阪地方）から荒佐野の地へ移住した人々の子孫から伝えられた。由来については、「農耕儀礼」、「朝鮮出兵の凱旋祝賀」、「防御・攻撃術の踊り化」など諸説あるが、一般的には五穀豊穰や無病息災を祈って踊られることから、荒佐野を開墾した人々も新天地での安泰を祈願して踊るようになったと言われている。

(3) 構成等

踊りは、6尺棒（木製薙刀）を持った踊り手と3尺棒（木製刀）を持った踊り手の総勢28人が、縦2列に並び、前後4人1組で歌い手の歌う調子に合せながら、威勢のいい掛け声とともに棒を打ち合わせ、勇壮に踊られる。

5 保存会や地域との連携の具体

ここ数年、児童数減少により、全校で行う行事にその影響が出てきた。特に、運動会は、児童は少なくなったが出場する種目は多く、児童らが休む暇がないなどの課題が多く見られた。

そこで、学校としては「秋季大運動会」を盛大に開催できるように、棒踊り保存会や地域（野方公民分館）との連携・協力を推し進め、平成25年度から、4～6年生の運動会表現種目に「棒踊り」を取り入れた。次に、平成26年度から、野方公民分館との合同運動会と称して、校区民が出場する地域種目を設け、運動会を盛り上げる工夫を行ってきた。棒踊りも準備から運動会本番まで保存会との連携や充実が図られてきたところではあったが、新型コロナウイルス

スの感染拡大により、運動会の規模が縮小されたため、棒踊りの伝承、披露の場として、11月に「のがたっ子フェスタ」での発表を目指し、保存会と連携し、披露している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

連携・協力の「体制」をしっかりとさせるために窓口を明確にしている。保存会側は、代表が窓口になり、保存会の会員の協力を取り付けるようにしている。学校側は、全体的には教頭が窓口になっているが、児童の練習計画や指導内容等、詳細の打合せは、4～6年生の担任が行い、児童が効果的・効率的に棒踊りを学習・練習できるように進めている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



体育館での練習の様子



「のがたっ子フェスタ」での発表の様子

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【6年児童】

4年生の時から棒踊りをして、今年が一番上手に踊れました。6年生なので脚絆まで付けて踊れてとてもうれしかった。みんなで一緒に元気に踊れてよかった。下学年のみんなには、来年もがんばってほしいです。

【保護者】

我が子の棒踊りを見ることができてよかった。来年以降も、披露できるように取り組んでほしい。

【教職員】

今年度は練習の回数が少なかったが、児童が集中して練習に取り組んでいた。経験のある6年生が4年生に教える姿が見られ、伝統が受け継がれている。練習を重ねるごとに動きがそろうようになり、のがたっ子フェスタでは堂々と踊り、児童は達成感を感じているようだった。

【保存会から】

子供たちが真面目に練習し、早く踊りを覚えてくれることがうれしい。指導する側も高齢になり、継承者が年々少なくなっている。教えている子供たちの中から大人になり、継承してくれればありがたい。